

くらしと安全 A

科目名	単位数	対象学年	対象学科	主な活動場所
くらしと安全 A	2/4 単位	1 学年	普通科・災害科学科	被服室・調理室
仮説 生涯を通じて、自らの命とくらしを守るための知識や技術を習得させることで、主体的に考え実践する能力が育まれ、また、実習等を多く取り入れることで生徒の実践力の育成につながるのではないかと考えた。				
研究内容・方法＜年間指導計画＞				
月	単元	具体的な学習内容	活動・評価等	
4 5 6	【人と災害】 1. 災害と家族	・生命の連なり, 地震発災時の行動, 家族の安否確認 ・安全な住まい, 家族の情報・役割分担 ・我が家の防災マニュアル, 情報の収集, 情報の伝達・活用 ・水と火, トイレ確保, 暑さ・寒さ対策, 災害時の食事	学習プリント レポート	
7 8	2. 次世代へのバトンタッチ	・思春期の健康管理と妊娠, 人工妊娠中絶, 避妊 ・子どもの成長と発達, 災害時の保育, 災害後のストレス ・ホームプロジェクト	学習プリント レポート 定期考査	
9 10 11	【くらしと災害】 1. くらしと衣服 2. くらしと食事	・繊維の種類と特徴, 被服の選択と取り扱い ・被服の機能, 災害時の被服管理, 日本の服飾文化と被服の環境 ・五大栄養素の特徴と働き, 食事摂取基準と災害時の栄養摂取	学習プリント 作品	
12 1 2 3	3. くらしと住まい 4. くらしのデザイン	・地元の食材の理解と保存食, 調理実習 ・食品の選択と取り扱い ・災害からの生活再建と仮設住宅 ・経済生活を設計しよう, 多様化する消費者問題 ・高校卒業後の生活設計	学習プリント 定期考査	

【検証】

A 学校設定科目の全般について

＜質問＞

- ①主体的に学習に取り組むことができる。
- ②ペアワークやグループ学習では、仲間と協力しながら取り組むことができる。
- ③様々な場面を想像しながら、状況に応じた対処法を考えることができる。
- ④物事を多方面から捉え、自分の考えを深めることができる。
- ⑤発災前の備えについて理解し、実生活に活かすことができる。
- ⑥発災直後に命を守るための行動が理解できる。
- ⑦実生活に結び付けて考えたり、探求に取り組んだりするなど深い学びを実践している。
- ⑧学んだ知識や技術を日常生活で活かし、家庭生活や社会生活を向上させることができる。

B 生徒の自己評価(ルーブリック評価)

右図参照

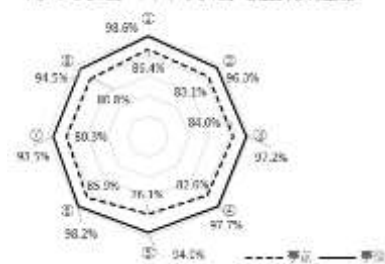
C 実施の効果・評価

(1), (2)の調査結果より、生徒は仮説どおり、授業や実習を通して主体的に考えることができ、実践力が身に付いたと考えられる。特に今年度はグループ学習や実習を多く実施したことで、より生徒に実践力が身についた。また、分散登校で1教室あたりの人数を減らして実習を行ったことで、他の生徒に頼らず自ら考え、実践しようとする生徒が多くなったと考えられる。

D 今後の課題

東日本大震災への記憶が薄れていく中で、生徒に対していかに自分や家族の命やくらしを守り、生きていくのかを考えさせるには、これからも授業に工夫が必要である。また、生徒の生活経験の少なさも実習を通して実感しており、今後は生徒に多くの体験や経験をさせることができるような授業展開を考えていきたい。

「よくできた」「ややできた」を選択した生徒



「卓越」「優秀」を選択した生徒



科目名	単位数	対象学年	対象学科	主な活動場所
くらしと安全A	2/4 単位	2 学年	普通科・災害科学科	教室
仮説				
生涯を通じて自らの命と暮らしを守るための知識と技術を習得させることで、主体的に考え実践する能力を育てられ、また、実験や実習を多く取り入れることで生徒の実践力の育成につながるのではないかと考えた。				
研究内容・方法＜年間指導計画＞				
月	単元	具体的な学習内容	活動・評価等	
4	【災害と安全】	・災害の定義や災害の歴史	リンクシート 定期考査	
	1 災害と防災・減災	・わが国の災害の特徴と災害から身を守る方法		
5	2 災害から身を守る	・応急手当の方法、非常時の応急手当の実践		
6	【健康と災害】	・健康の保持増進と災害時の疾病予防		
	1 応急手当			
7	【健康と災害】	・健康の定義と健康を持続させる方法、災害時の疾病	リンクシート 定期考査	
	2 健康を考える	・健康の保持増進と災害時の疾病予防		
8	3 生活習慣病と感染症	・心身への関連と精神の健康、災害時の精神の健康		
	4 精神の健康	・災害時に起こりやすい怪我や病気及びその対処法		
9	5 災害時の病気とけが	・高齢者の特徴と健康課題、災害時の高齢者への支援		
	6 高齢者の特徴と理解			
10	【環境と災害】	・公共機関の健康や福祉における役割、医薬品	リンクシート 定期考査	
11	1 保健医療制度と災害	・交通事故の原因や事象、交通の視点からの防災		
12	2 交通安全と災害	・労働災害の定義、災害時の労働災害		
1	3 労働と災害	・県境汚染や破壊を防止する方法や改善策		
2	4 環境と災害			
3	【災害と復興】	・ボランティア活動の定義や留意点	リンクシート	
	1 災害とボランティア	・復興に向けた支援制度と活用方法		
	2 復興に向けて	・これまでの学習内容の振り返りと調査・研究		
	3 探究活動			

【検証】

A 学校設定科目の全般について

＜質問＞

- ①主体的に学習に取り組むことができる。
- ②防災・減災に関する資料・データを科学的視点から分析できる。
- ③日常の備え、災害時の行動について、根拠に基づいて考えることができる。
- ④日常の備え、災害時の行動について、自分の考えを説明することができる。
- ⑤獲得した知識をもとに、自分の考えを形成することができる。

B 生徒の自己評価(ルーブリック評価)

右図参照

C 実施の効果・評価

(1)の結果より、質問項目3「日常の備え、災害時の行動について根拠に基づいて考えることができる」は災害科学科では肯定的な回答が100%、普通科では5.4ポイント向上した。質問項目4「日常の備え、災害時の行動について、自分の考えを説明することができる」は実施後災害科学科で4.4ポイント、普通科では5.0ポイントそれぞれ向上した。これらの結果から、防

災・減災の具体的な手立てや日常時や災害時において自らが健康を保持するための方法について、正しい根拠に基づいた行動を考え、グループ内で互いに共有する授業方法に一定の効果があったと考えられる。

学校独自の教材や学習プリントは全クラス共通したものを活用しているため、評価の一貫性を保つことができたと考えられる。分散登校時においても、スライドを中心に学習を進めることができ、他教室の生徒も問題なく授業を進めることできた。

D 今後の課題

東日本大震災時の明確な記憶のない生徒が増えることが考えられる状況において、「くらしと安全A」が果たすべき役割は大きい。今後も視覚的な教材を積極的に活用し、文字や言葉だけでは伝わらないものを生徒に伝えていきたい。また、昨年度感染症の影響により実施できなかった特別授業を、今年度は実施することができた。多面的な視点を持ち、より専門的な知識を得ることができる特別授業は、今後も実施方法や内容を含めて検討したい。

